

いつのもの？

時を考える

ひとつか人が使うものは時代や目的によって変化します。いつ、何が行われたか、どういう人がいたか。数多く見つかる土器をはじめとしたものたちは、これらを解き明かす手がかりです。見つかった場所についても考えなくてはなりません。

ナニコレ？

これらは大阪市平野区、現在の瓜破霊園のある場所で見つかりました。食べ物や飲み物を入れる須恵器の器やニワトリの形をした埴輪で、1600年近く前のものです。これらのものから考えて、当時この場所に何があったのでしょうか。

回答

ひだりうえ すえき つき つまふた
左上：須恵器 坏・坏蓋
みぎうえ すえき ほそう
右上：須恵器 甗
した とりがたはにわ
下：鳥形埴輪
(すべて古墳時代)



あ と が き
ひとびとの営みは、風雨や火山の噴火、人間による工事で埋まって遺跡となります。そしてそこに埋まったもの=遺跡とともに考古学の研究対象になります。いつ、どこで、誰が、なぜ、どうやって、と歴史に関する問いはたくさんありますが、

考古学では直接話すことのできない遺物や遺跡を、日本全国や世界の事例と比べ、時には最先端の科学を使ってこうした問いについて考えます。現在は過去の積み重ね。今、令和のわたしたちを特徴づけるものがあるのなら、何になるのでしょうか。

特集展示

ナニコレ？の ころころがく

約80件展示

'23 6.28 水 10.2 月
令和5年 火曜日休館 8.15(火)は開館



ガイド & ワークシート

考古学とは、もの(物質)を主な材料として昔のことを明らかにする学問です。博物館の展示ケースには土器をはじめ多彩なものや並んでいます。こういった資料はどのように観察すればいいのでしょうか。考古学の視点から、見るべきポイントをおさえましょう。このシートの問題に正しく答えることよりも、「ナニコレ？」と考えることが重要です。わからないところ、もっと知りたいところは辞書や図書館で調べてみましょう。もっと理解が深まるはず。

- ★ナニコレ？展の決まり事★
- ・展示場はゆっくり歩きます。
 - ・話し声はささやき声です。
 - ・書きこみはペンではなく鉛筆をつかきましょう。
 - ・ケースにはさわらず、見るだけにします。
 - ・ネットでは問題の答えを言いません。
- ※ワークシートの問題の画像は展示品とことなる場合があります。
※ワークシートの答えは展示場でご確認ください。
※資料はすべて大阪歴史博物館の所蔵品です。

どんな色？

色を見る

色を見分けてみましょう。光の色や明るさでものの色は違って見えるため、正確な色の名前を答えなくてもいいのです。しかし一部の色がちがっていたり、材質によって色が違ったり、文様が入っていたりします。ものに残された細かい情報を見逃さないように色を見分ける必要があります。



たまらい こふんじだい 玉類(古墳時代) ※ひもは現代のもの

ナニコレ？

小さくてカラフルなビーズたちは、身体をかざるアクセサリとして使われたものです。とても美しい色をしています。古墳時代では権力者の持ち物でした。どんな色が見えるか、思いっただけあげてみましょう。

回答

関連行事 わくわく子ども教室 さわって 作って！ナニコレ？のころがく

考古学をもっと楽しむための子ども向けワークショップです。本物の土器や石器をさわってよく観察したあと、豊臣秀吉の時代の犬のフィギュアを見本に粘土でレプリカを作ります。昔の人の気分になれちゃうかも。

日 時：令和5年7月29日(土)
13:30～15:30(受付：13:00～)

会 場：大阪歴史博物館 4階 第1研修室
対 象：小・中学生 ※小学校4年生以下は保護者同伴のこと
定 員：10組(1組1家族まで)
参加方法：事前申込制(先着順)
参加費：500円



関連行事 ちぎり絵うちわづくり

展示品からお気に入りのものをモチーフにしてちぎり絵に挑戦。うちわにしてお持ち帰りください。どなたでもご参加いただけます。ものの色や形を楽しんで。

日 時：令和5年7月15日(土)、8月5日(土)、
9月16日(土)
10:00～11:00(受付：9:30～)
13:30～14:30(受付：13:00～)

会 場：大阪歴史博物館 8階
常設展示室「歴史を掘る」コーナー
定 員：各回5組(1組2名まで)
参加方法：事前申込制(先着順)
参加費：200円 ※入館には常設展観覧券が必要です



【ナニコレ？のころがく 会期：令和5年6月28日(水)～10月2日(月) ※8月15日(火)は開館 展示担当：安岡早穂】

会 場：大阪歴史博物館 8階 特集展示室(常設展示場内)
開館時間：午前9時30分～午後5時 ※入館は開館30分前まで
アクセス：Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②号・⑨号出口/大阪シティバス「馬場町」バス停前
観 覧 料：常設展示観覧料でご覧になれます。
大人 600円(540円)
/高校生・大学生 400円(360円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料



関連行事 ナニコレ？クイズラリー

担当学芸員と一緒に、展示を見ながらクイズに挑戦します。
日 時：令和5年8月13日(日)、9月17日(日)
13:45～14:30(受付：13:30～)

会 場：大阪歴史博物館 8階 特集展示室
定 員：各回20名
参加方法：当日先着順
参加費：無料 ※ただし入館には常設展観覧券が必要です
各イベントの詳細は当館ホームページをご確認ください。

どんな感じ？

材料を見る

材料は考古学にとって重要で、どこで作られたか、どんな技術が使われたかの手がかりになります。ザラザラ、ピカピカといった質感から、土や石、金属、骨といった材料・材質を見極めましょう。色も大きなヒントです。考古学に最も多く登場する焼き物も、焼く技術や材料によって色々あります。

ナニコレ？

これらは全て焼き物の器の写真です。表面の色や質感についてそれぞれ選択肢から選んでみましょう。(何回でも選択できます)

選択肢

- 【色】 ア. 黒色 イ. 青色 ウ. 薄茶色 エ. 茶色 オ. 白色 カ. 灰色
- 【質感】 a. ゴツゴツ b. ザラザラ c. スベスベ d. ツルツル e. ツヤツヤ



縄文土器 (縄文時代) :

回答



須恵器 (古墳時代) :

回答



土師器 (鎌倉時代) :

回答



瓦器 (鎌倉時代) :

回答



陶器 (江戸時代) :

回答



磁器 (江戸時代) :

回答

ナニコレ？

色が大きく違う二つの金属製品は、どちらも作られたばかりのころはピカピカと光っていたはずですが、金属は空気や水と反応してさびていってしまいます。さびの色を手がかりに、それぞれ何の金属か選択肢から選んでみましょう。

選択肢

- ① 金 ② 銀
③ 銅 ④ 鉄
⑤ アルミニウム

ヒント

身の回りにある金属、たとえばフライパンやお金、ネジなどではどうでしょう？



刀子 (古墳時代か)

回答



戈 (弥生時代)

回答

どんな形？

使い方を考える

考古学では人々が必要としたものをあつかいます。狩りや農耕の道具、衣服、武器、食に関する道具、それに祭りの道具とさまざまです。壊れずに残ったものの特徴から、もとの使い方を復元できるのでしょうか。たとえば、ごはんを盛るお碗の特徴は、丸くくぼんでいて手で持ちやすいサイズであるといえるでしょう。

ナニコレ？

どちらも素焼きの弥生土器です。左の壺は、全面にクシのような道具で付けた文様があり、さらに丸い粘土粒をたくさん貼り付けています。右の甕は目立った飾りはみられず、上側にハケの跡が残るのみです。下側は真っ黒にこげています。それぞれどのように使われたか考えてみましょう。

壺 (弥生時代)
※底部分は復元

回答

甕 (弥生時代)

回答

ナニコレ？

縄文時代の骨角器です。シカの角でできており全体がツヤのある白っぽい色をしています。右のものにはとげのようなでっぱりが作られています。左のものは、上側に溝があり、溝の内側には黒い付着物が残っています。何のための道具でしょうか。そしてどうやって使ったのでしょうか。考えてみましょう。

左：根ばさみ 右：銚頭 (いずれも縄文時代)

回答

